

## 第 5 回

1. 日時 平成 15 年 1 月 29 日 (水) 13:30 ~ 15:30

2. 場所 東京都港区虎ノ門 4 - 1 - 1  
虎ノ門パストラル 新館 5 階 マグノリアの間

3. 委員の現在数 4 名

4. 出席した委員の数及び氏名

委員長	若杉	敬明
委員	神作	裕之
委員	中村	実
委員	山崎	元

以上 4 名 出席

5. 審議事項及び報告事項

- ・平成 14 年度積立金運用実績 (1 月末現在) (報告)
- ・運用基本方針及び計画 (案) (審議)
- ・資金管理業務に係る第三者審査の結果報告について (報告)

6. 開会

板倉治成理事長が、本日の積立金運用委員会は同規則第 4 条の規程による定足数を満たしているので、有効に成立している旨の報告と挨拶を述べた後、経済産業省放射性廃棄物対策室長の山近氏よりご挨拶をいただいた。

続いて、板倉理事長が委員長の選出について諮ったところ、委員の互選により、若杉敬明委員が委員長に再選され、委員長再任の挨拶を述べた後、議事に入った。

7. 議事の概要

委員長は、平成 14 年度積立金運用実績 (1 月末現在) 運用基本方針及び計画 (案) 資金管理業務に係る第三者審査の結果報告について以上、報告事項 2 項目及び審議事項 1 項目の事務局案を、井上毅専務理事から説明を行わせた。

その後、当該事項について審議した結果、了解を得た。

## 8. 次回スケジュール

平成15年7月を目途に開催したい。

## 9. 閉会

以上をもって議事全てを終了し、委員長は閉会を宣した。

### . 平成14年度積立金運用実績報告について

#### < 委員会で寄せられた意見 >

運用計画に沿ってほぼ計画通りの運用が行われており、特段問題となることはない。

ただ、社債の運用制限として資本金基準を運用細目で定めているが、企業を総合的に評価する格付けは、資本金の規模も含めて検討されているので、資本金基準を別途設定する必要性については、再検討が必要ではないか。

### . 運用基本方針及び計画（案）について

#### < 委員会で寄せられた意見 >

平成15年度運用方針策定にあたっては、金融情勢に大きな変化はなく、「中長期的な運用基本方針を基に信用リスクの高まりに対応した運用」に基づき、大枠で14年度の運用方針を継続することで良いのではないか。

現行の金利がかなり低くなっているが、年度途中で反転するのではというような相場観を持って購入時期を後ろにずらすようなことはせず、早期運用をはかることが適切ではないか。

運用の評価基準として、従前通り「割引率算定の基礎となる長期国債応募者利回り（単年度平均）を上回る運用」を努力目標とする事でよいが、現在の金利状況では、現行の割引率（2%）に及ばない事に対しては、デフレによる物価下落を織り込んだ実質利回りで、成果を評価するべきではないか。

短期の預金運用については、運用金利が非常に低いという現状に鑑み、リスクとリターンを勘案して、必ずしも入札による定期預金運用にとらわれる必要はなく、普通預金に据え置くことが出来るようなフリーハンドを持てるように考えたら良いのではないか。

・ 資金管理業務に係る第三者審査の結果報告について

当センターの資金運用が公的な性格が強いことから、通常の内外部監査に加え、会計監査の適正性、運用管理業務の適確性について、経済産業省が委嘱した監査法人による第三者審査が行われた。

会計監査に関して、特段の問題は指摘されていないが、参考意見として、未収利息の取扱い並びに保有債券に対する償却原価法の適用が今後の検討事項として挙げられた。

当センターの資金運用は、経過期間の計算上の利息金額としての未収利息ではなく、利払い時をもって利息を計上するという会計方式を採用しており特段の問題はないこと、また、新規に発行される債券を額面とほぼ同額で購入しており、償還差損や差益はごく僅かであるという当積立金の運用実態も考慮し、公益法人会計基準との整合性もはかられている現行の会計処理を継続するというセンターの見解は概ね妥当ではないか。

運用管理業務に関して、債券ポートフォリオ管理システムの活用により、ポートフォリオ全体の時価評価に加え、含み損益の状況を把握し、必要性を検討の上、理事長に報告することが望ましいという提言に対し、運用対象は株式を除き、国債、政府保証債、地方債及び社債等の債券に限定されており、満期保有を原則としているので、時価評価額が問題となるケースは例外的にしか発生しないが、リスク管理の面から定期的（月1回程度）に報告するような体制を作っていくのが望ましい。

「事務局」資金管理業務部 TEL：03-5157-5850

(参考)

## 資金管理業務 14 年度運用実績

### 積立金資産構成

(平成15年1月31日現在)

		簿価金額	構成比(簿価)	額面金額	平均クーポン	利回り
		百万円	%	百万円	%	%
債    券	国債	82,083	49.93%	81,800	1.47%	1.42%
	政府保証債	14,676	8.93%	14,741	1.35%	1.41%
	地方債	34,347	20.89%	34,489	1.40%	1.45%
	事業債	33,289	20.25%	33,300	1.41%	1.41%
	債券合計	164,397	100.00%	164,330	1.43%	1.42%
預	金	2,528	-	-	-	0.01%
運用残高合計		166,925				

百万円未満は切り捨て

利回りは1月31日時点の最終利回り(単利)、平均残存年数は8.70年

### 地方債・事業債の平均格付け

(平成15年1月31日現在)

地方債            A A +

事業債            A A +

・保有債券の格付けを数値化(注)し、額面金額の加重平均により算出(小数1位四捨五入)

(注)    A A A : 1、A A + : 2、A A : 3、A A - : 4  
格付けが複数ある場合は高位のものを採用